

住みよいまちづくり計画
「みんなのふるさと 誰もが住みよいまち 日吉」
計画書



令和6年4月

日吉地域自治町民会議

もくじ

1. はじめに一計画の目的・計画の性格.....	1
1-1 地域みんなの計画.....	1
1-2 計画づくりの進め方.....	1
2. 「住みよいまちづくり計画 日吉」の概要.....	3
2-1 計画の名称.....	3
2-2 計画期間.....	3
2-3 計画の構成.....	3
3. 日吉地域の将来方向.....	4
3-1 まちづくりの理念.....	4
3-2 日吉地域の将来像.....	4
4. 先行事業の展開.....	6
5. これからの取組み.....	7
6. 計画の推進.....	19
6-1 参加者の拡大とみんなの連携、活動の見直し.....	19
6-2 計画の改善・見直し.....	20
◇日吉地域の課題.....	21

1. はじめに一計画の目的・計画の性格

1. はじめに一計画の目的・計画の性格

1-1 地域みんなの計画

私たちの日吉地域は、令和4年10月10日に「日吉地域自治町民会議」を設立しました。

日吉地域では住みよい地域づくりのために、区をはじめ、地域の各種委員・団体（公民館、社会福祉協議会、民生児童委員、農業委員、消防団、老人会、推進員会、体育振興会、交通安全協会、子ども会育成会、土地改良区、小・中学校PTAなど）は、大きな役割を担ってきました。

一方、日吉地域も例外ではなく、養老町の状況と同じように、少子高齢化と人口減少が進んでおり、地域における活動の停滞や、それに伴う活力の低下が懸念されます。この変化を住民も実感するようになっており、地域の生活に及んでくる問題が深刻化する前に、みんなが前向きに話し合い、将来にわたって住み続けることができる地域づくりが一層求められます。

一方では、町の財政事情は高齢化に伴う福祉関連の支出増加、国全体の大きな経済成長は望めず、国からの交付金・補助金は絞られて、ますます町の行財政事情は厳しくなっています。

これからの確実な地域づくり推進のためには、今まで以上に地域住民の力を引き出し、住民のニーズに即したまちづくりをみんなで進めることが不可欠です。さらに、地域の問題解決やまちづくりのためには、住民や各種団体などと行政とが共通の目標を持ち、役割分担して「協働」でまちづくりを進めることも必要です。

このため、日吉地域自治町民会議においては、地域に様々な団体のネットワーク化を図り、住民・区・各種団体・企業などが連携・協力して地域が一体となって力を発揮していかなければなりません。

そこで、日吉地域の住みよいまちづくりを目指して、住民が主体的になって取組み、協働を推進するために地域まちづくり計画を策定します。

※協働：同じ目的のために、対等な立場でそれぞれが団体等の特性を生かして協力して共にまちづくりを進めること

【計画の性格】

○地域まちづくり計画は、住民が課題をみんなで共有して、各種団体のこれまでの経験を生かしながら力を合わせてまちづくりに取り組んでいくための指針となる計画です。

○計画的にまちづくりを進めていくため、地域自治町民会議が事業計画を立案する際の根拠とします。

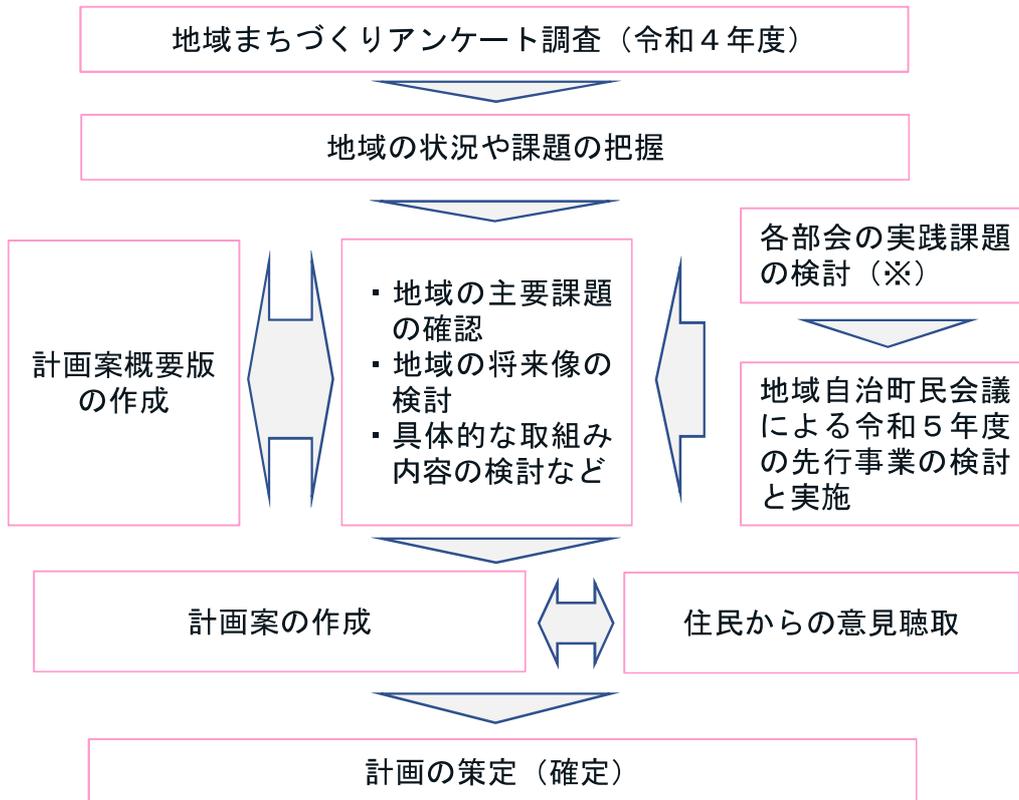
1-2 計画づくりの進め方

日吉地域まちづくり計画は、令和4年度に実施した「地域まちづくりアンケート調査結果」を基に地域の課題を整理しました。これに次いで、令和5年度内に各部会により先行事業に取り組んでいくこととその内容に留意しながら、部会長が参加する役員会における議論を経て策定しました。

さらに、計画づくりの過程においても地域住民の意見を様々な機会を通じて得ながら、内容を固めてきました。

1. はじめに一計画の目的・計画の性格

図表 日吉地域まちづくり計画策定の流れ



※【参考：各部会の実践課題の認識】：計画の推進、内容の見直しのための参考
設立前の資料から部会名称などを設立後のものに変更

- 総務・安心・安全部会
 - ・各地区の諸問題解決及び行政区組織の効率化
 - ・自治町民会議の広報活動
 - ・防災対策及び活動の推進
防災体制表（昼夜の在宅者）、ハザードマップ
 - ・防犯対策及び活動の推進
空き巣対策、防犯カメラ、防犯灯（LED化）
 - ・交通安全対策及び活動の推進
登下校時の危険箇所把握
- 産業・環境・美化部会
 - ・環境の保全及び整備の推進
ゴミの不法投棄、ポイ捨て、耕作放棄の田畑、子ども会花壇（三世代花壇）
- 健康・福祉部会
 - ・健康づくりの推進
ラジオ体操、軽スポーツ
 - ・高齢者の生きがいづくりの推進
老人会組織の見直し、独居老人、福祉員配備
- 文化・教育部会
 - ・地域の子どもの育成、子育て支援
少子高齢化、コミュニティスクールとPTA活動
 - ・地域の歴史や伝統文化の伝承
本物の文化に触れる・学ぶ、出前講座活用

2. 「住みよいまちづくり計画 日吉」の概要

2. 「住みよいまちづくり計画 日吉」の概要

2-1 計画の名称

日吉地域まちづくり計画は、住民に親しみやすく、また、住みよいまちづくりをめざす計画として、

「住みよいまちづくり計画 日吉」

という名称にします。

2-2 計画期間

「住みよいまちづくり計画 日吉」の計画期間は、5年間とします。

また、地域の状況変化や住民の声から重点的に対処すべき課題が出てきた場合には適宜見直しを図り、地域の課題を解決する方向性と取組みを追加・修正します。

計画期間 5年間

令和6（2024）年度～令和10（2028）年度

2-3 計画の構成

「住みよいまちづくり計画 日吉」は、地域の将来像など、将来方向を掲げて、これからの取組みを示します。

主な内容は次のとおりです。

- ⑥日吉地域の将来方向
- ⑥先行事業の展開
- ⑥これからの取組み
- ⑥計画の推進

3. 日吉地域の将来方向

3. 日吉地域の将来方向

アンケート調査結果ならびに、現状整理、役員会での意見交換から、日吉地域の将来方向の検討に際しては次のようなキーワードを抽出することができました。

【まちづくりのキーワード】

- ・誰もがみんな
- ・世代を超えて
- ・みんなで創る
- ・老いも若きも
- ・住み心地が良い
- ・住み続けたいくなる
- ・いいところ
- ・誇りあふれる
- ・自然と文化と仲間
- ・古墳、遺跡
- ・日吉の歴史
- ・会話がはずむ
- ・心がはずむ
- ・まずやる
- ・パワーアップ

3-1 まちづくりの理念

日吉地域は、次のような考え方に基づいて、まちづくりを進めます。

⑥ 地域の魅力探しと魅力伸ばしにまい進します。

日常的に慣れ親しんだ地域については、その良さや魅力を忘れがちになっていきます。住みよいまちづくりのためには、地域を再発見して、ほかの地域にはない歴史資源、自然資源、人材を生かして、みんなで地域の魅力を創出して内外にアピールするまちづくりを進めます。

⑥ みんなで考え、みんなで幸せを築きます。

人口減少や少子高齢化をできるだけ抑制することや、それに対応したまちづくりが求められます。このため、世代を超えて地域のみんなの意見を尊重するとともに、みんなが主体的に考えて、自主的に行動して心がはずむようなまちづくりを進めます。

3-2 日吉地域の将来像

まちづくりの理念を踏まえて、日吉地域の将来像を次のように掲げます。

みんなのふるさと 誰もが住みよいまち 日吉

⑥ 地域の持続性の維持

日吉地域にできるだけみんなが住み続けたり、出身者が戻る、新たに住みたい人を確保します。また、日吉地域の快適な居住環境、自然環境を継承して、地域の持続性を維持します。

⑥ 地域の個性と新たな魅力づくり（日吉ブランド）

日吉地域は古代遺跡の歴史に恵まれていることを改めて思い起こし、住民がふるさと日吉に誇りを持ちます。これから先、誰もが日吉地区の良さを知り、それを伸ばしながら、日吉固有の資源としてアピールします。

3. 日吉地域の将来方向

⑥ 誰一人とり残さない「SDGs 推進」へつながる

地域の未来を築いていくために、一人ひとりが住みよいまちを創造する取り組みを始めます。これは世界共通の目標であるSDGsの推進につながり、SDGsの理念の一つである誰一人とり残さないことを地域づくりにおいても実現します。

なお、SDGsについては、地域の共通の課題として、徐々に浸透を図っていきます。

※SDGs (Sustainable Development Goals) : 持続可能な開発目標

2015年9月に国連で決められた2030年までの指針で、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指したものです。

内容は、「17の目標」と「169のターゲット(具体目標)」で構成されています。

SDGsの17の目標



SDGs 17のゴールのロゴの内容 (国際連合広報センター資料より。一部要約)

目標1 貧困をなくそう	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
目標2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
目標3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
目標4 質の高い教育をみんなに	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
目標5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。
目標6 安全な水とトイレを世界中に	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。
目標8 働きがいも経済成長も	すべての人々のための包摂的かつ持続可能な経済成長、雇用およびディーセント・ワークを推進する。
目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう	強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進、イノベーションの推進を図る。
目標10 人や国の不平等をなくそう	各国内及び各国間の不平等を是正する。
目標11 住み続けられるまちづくりを	都市を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする。
目標12 つくる責任つかう責任	持続可能な消費と生産のパターンを確保する。
目標13 気候変動に具体的な対策を	気候変動とその影響に立ち向かうため緊急対策を取る。
目標14 海の豊かさを守ろう	海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
目標15 陸の豊かさを守ろう	森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止、生物多様性損失の阻止を図る。
目標16 平和と公正をすべての人に	公正、平和かつ包摂的な社会を推進する。
目標17 パートナリシップで目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

4. 先行事業の展開

4 先行事業の展開

日吉地域では、地域自治町民会議の活動を早期に開始するために、まちづくり計画の策定と並行して、令和5年度に4つの先行事業を進めてきました。

先行事業の状況を踏まえ、また、事業が軌道に乗る見込みを付けながら、まちづくり計画を策定しました。

事業名【担当部会】	目的	内容
生活支援日吉おたすけ隊 【総務・安心・安全部会】	身体的健康上の理由や運転免許返納などの理由により、自分で行うことが困難な家事を代行することによって高齢者等弱者世帯を支援し、地域で支え合う社会づくりを目指す。	①家庭ごみ出し、②資源回収、③粗大ごみ処理を代行する。
地域見守り隊（見守りたい） 【健康・福祉部会】	各地区に居住する高齢者（独居老人・高齢世帯）の安否の把握と生活支援を行う。 高齢者との連携を密にし、気軽に声掛け、連絡できる環境づくりを行う。	見守り隊による高齢者世帯の見守り、安否の把握を行う。 対象者の個人情報を守り、希望意思に沿って実施する。
日吉クリーン作戦 【産業・環境・美化部会】	町内のポイ捨てごみを一掃して美化を推進する。 ごみ出し時の分別知識を深める。	町内ごみ一掃活動を各区単位で実施し、それに合わせて、ごみ収集所で区長がポスターを使用して、ごみの分別等のミニ講習会を行う。
象鼻山フェスタ2023 【文化・教育部会、（地域自治町民会議事業として実行委員会により実施）】	地域の誇りである象鼻山及び象鼻山古墳群を知り、後世につなぐ。	実行委員会により企画・準備と開催を行う。 11月4日（土）にイベント、象鼻山までのウォーキング等を実施する。



象鼻山フェスタ 2023

5. これからの取組み

5 これからの取組み

これからの取組みは、令和5年度に実施した4つの『先行事業』を踏まえて、それらを充実させる3つの『スタート・プログラム』と、スタート・プログラムを継続しつつ、無理なくステップアップさせていく『発展プログラム』で構成します。

先行事業(R5)

⑥ 計画づくりと並行する取組み

- ・生活支援日吉おたすけ隊
- ・地域見守り隊（見守りたい）
- ・日吉クリーン作戦
- ・象鼻山フェスタ 2023



スタート・プログラム

⑥ 先行事業の充実と、既存事業に無理なく取り組む

- 【プログラム1】助けあいと見守りのまちづくり
- 【プログラム2】ごみのない美しいまちづくり
- 【プログラム3】歴史・文化、自然を学び大切にするまちづくり



発展プログラム

⑥ スタート・プログラムを継続しつつ、無理なくステップアップ

- 【プログラム4】災害への備え、災害時の対策
- 【プログラム5】空き家の対策、環境の維持
- 【プログラム6】世代間交流と子育て支援、健康づくりの推進

5. これからの取組み

【スタート・プログラム】

【プログラム1】 助けあいと見守りのまちづくり

⑥ プログラムの目的

「生活支援日吉おたすけ隊」が、健康上の理由などで自立した生活が難しくなった高齢者のごみ出しをお手伝いします。

また、高齢者世帯などを「地域見守り隊」が巡回して安否を見守り、気軽な声掛けや、緊急時に連絡が取れる環境づくりを行います。

【目標（将来の姿）】

地域で困った人を見守り、助けあう活動を盛んにして、誰もが安心して生活することができる地域になっています。

数値目標	R5 現在	R10	注 釈
(1) おたすけ隊設置区数	15区全て	15区全て	活動の継続・内容の充実
(2) 地域見守り隊の延べ実施回数	—	180回	月1回・年12回×15区
(3) 前よりも安心して暮らせる地域になったと感じる住民の割合	—	30%	R10年にアンケートを実施

⑥ SDGsの推進



＜目標3 すべての人に健康と福祉を＞

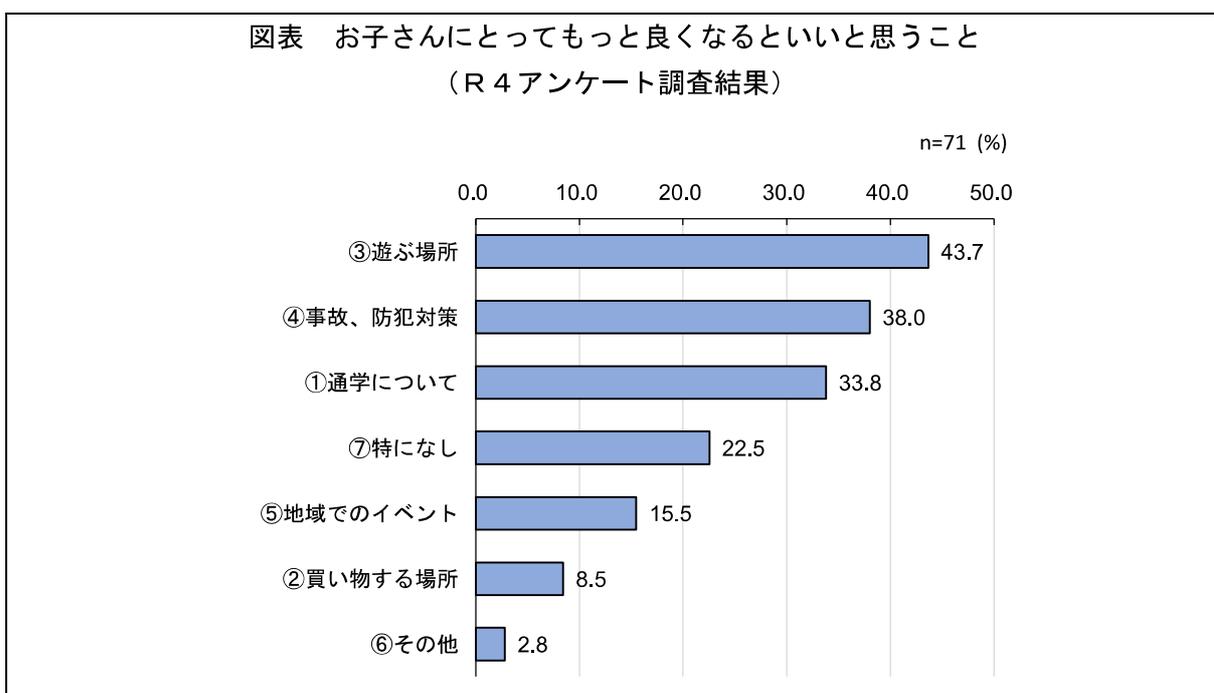
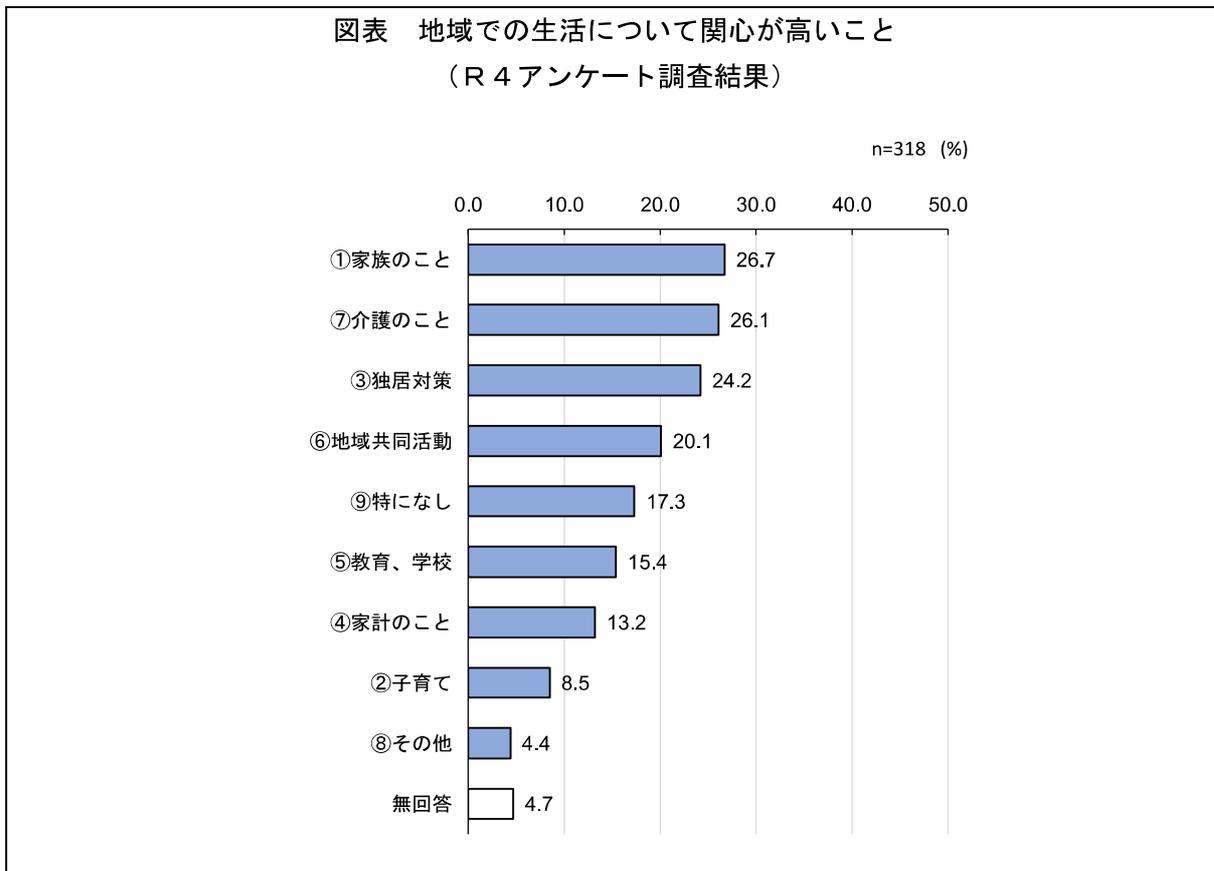
日吉地域の住民すべてが明るく健康に暮らし続けるようにします。

⑥ 取組み内容・主に取り組む主体・スケジュール

取組み項目	内 容	中心となる 主体	R6	R7	R8	R9	R10	R11 ～
1-1 生活支援日吉おたすけ隊によるごみ出し支援	それぞれの区においてごみ出しの代行を住民ニーズを把握しながら実施	・総務・安心・安全部会 ・区	活動の継続・内容の充実					→
1-2 地域見守り隊による巡回、安否確認とそ活動	独居老人・高齢世帯の月1回の巡回・安否確認とその情報共有	・健康・福祉部会 ・区	各区で継続					→
1-3 相談体制の充実	民生児童委員、社会福祉協議会などと連携した相談の充実	・総務・安心・安全部会 ・健康・福祉部会 ・社会福祉協議会	相談体制の検討	相談体制の充実				→

5. これからの取組み

⑥ 参考



5. これからの取組み

【プログラム2】 ごみのない美しいまちづくり

⑥ プログラムの目的

道路や公園の除草を行うとともに、地域のポイ捨てごみを一掃することで、美しい環境を維持して、ポイ捨てを抑止します。

家庭からできるだけごみを出さないように啓発するとともに、ごみの分別講習を開催してリサイクル意識を高めます。

【目標（将来の姿）】

日々の暮らしでごみをできるだけ出さない生活にしており、地域を歩いてごみが目につかない美しい地域になっています。

数値目標	R5 現在	R10	注 釈
(1) ごみ一掃活動の開催回数	各区年 1～2回	各区年2回 程度	各区の実情に応じて回数 などを決める。
(2) ごみ分別講習会を開催または 講習会に参加した区	—	15区全て	区が合同で開催したり、 講習会に参加することも 含む
(3) 前よりも地域が美しくなっ たと感じる住民の割合	—	30%	R10年にアンケートを 実施

⑥ SDGsの推進



<目標 12 つくろうごみなく つかう責任>

物を大切に、ごみを出す時はきちんと分別します。

⑥ 取組み内容・主に取り組む主体・スケジュール

取組み項目	内 容	中心となる 主体	R6	R7	R8	R9	R10	R11 ～
2-1 道路・公園の 除草、ごみ一掃活動	各区で道路・公園の除草とごみ一掃活動を実施	・産業・環境・美化部会 ・区	● 各区で 継続					→
2-2 ポイ捨て対策	ポイ捨てを抑止できるような看板・ポスターを作成	・産業・環境・美化部会	● 表示内容の検討	● 作成、掲示・設置	● 表示内容の更新検討	● 作成、掲示・設置		→
2-3 ごみの分別講習	住民向けのごみの分別講習会の開催	・産業・環境・美化部会 ・区	● 開催					→

5. これからの取組み

⑥ 参考

(写真) 日吉クリーン作成の様子



5. これからの取組み

【プログラム3】 歴史・文化、自然を学び大切にするまちづくり

⑥ プログラムの目的

日吉地域の貴重な歴史・文化と自然資源であり、地域の誇りでもある象鼻山及び象鼻山古墳群について、みんなが知り大切にして後世につなぎます。

また、象鼻山をはじめ地域の今までの歩みについて学ぶ、ふるさと学習を進めて、地域への愛着を高めます。

【目標（将来の姿）】

象鼻山をはじめ地域の歴史・文化、自然が継承されて、広く知られるようになっており、地域への誇りと愛着が高まっています。

数値目標	R5 現在	R10	注 釈
(1) 象鼻山フェスタの参加人数	約 500 人	600 人	概ねの参加者数
(2) 前よりも地域への愛着が高まったと感じる住民の割合	—	30%	R10 年にアンケートを実施

⑥ SDGsの推進



<目標4 質の高い教育をみんなに>

象鼻山など地域の歴史文化、自然について学び続けて継承します。

⑥ 取組み内容・主に取り組む主体・スケジュール

取組み項目	内 容	中心となる 主体	R6	R7	R8	R9	R10	R11 ~
3-1 象鼻山フェスタの開催	象鼻山フェスタを毎年1回開催して内容や参画者を充実	・文化・教育委員会 ・各種団体(実行委員会)	●	●	●	●	●	●
3-2 ふるさと学習の推進	象鼻山フェスタの様子、地域の歴史などを学習	・文化・教育委員会 ・公民館 ・こども園 ・小学校	●	●	●	●	●	●

5. これからの取組み

【発展プログラム】

【プログラム4】 災害への備え、災害時の対策

⑥プログラムの目的

台風や豪雨、地震、豪雪の際にも安全を確保することができるように、日吉地域全体の防災体制を整え、過去の教訓など防災について学び、訓練を行います。

災害時の安否確認や避難体制をつくるなど、緊急時に的確に安全を確保することができるようにします。

【目標（将来の姿）】

台風や豪雨、地震、豪雪の時にも誰もが安心して生活することができ、緊急の時は地域全体で助け合っています。

数値目標	R5 現在	R10	注 釈
(1) 地区防災組織の機能強化	活動中	機能強化	組織・活動内容の充実
(2) 防災講座・訓練の開催回数	—	年1回	合同開催を含む。
(3) 前よりも地域への災害に対する安全性が高まったと感じる住民の割合	—	30%	R10 年にアンケートを実施

⑥SDGsの推進



<目標 11 住み続けられるまちづくりを>

災害に対しても安全で住み続けられるまちをみんなで実現します。

⑥取組み内容・主に取り組む主体・スケジュール

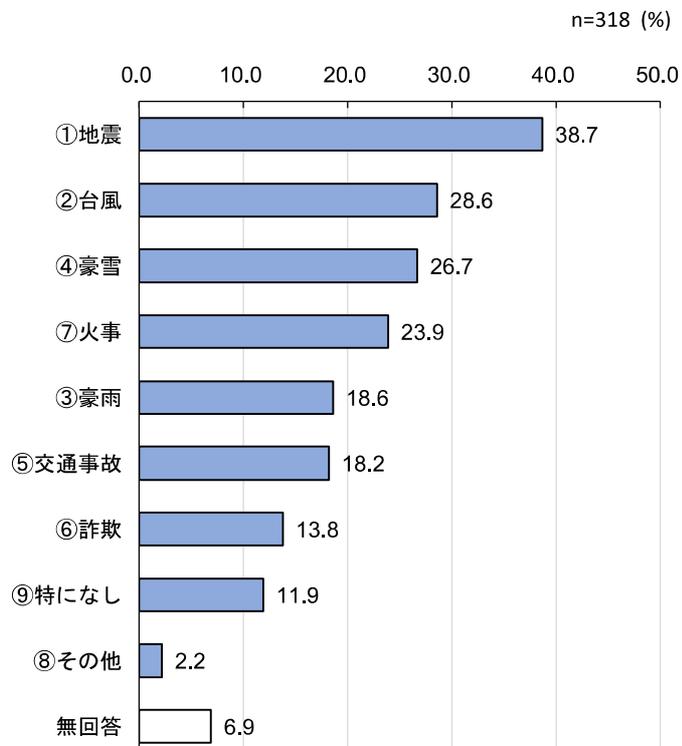
取組み項目	内 容	中心となる 主体	R6	R7	R8	R9	R10	R11 ~
4-1 防災体制（安 否確認体制） の整備	日吉地域と しての防災体 制（安否確認 体制）を整え、 各区の防災組 織と連携を実 施	・総務・安心・ 安全部会 ・区	組織・活 動内容 の充実					→
4-2 防災講座と 訓練	防災講座の 開催、ハザ ードマップの活 用、避難経路 の検討、防災 訓練を工夫・ 充実	・総務・安心・ 安全部会 ・区	訓練の 工夫、講 座・訓練 の開催					→

5. これからの取組み

取組み項目	内 容	中心となる主体	R6	R7	R8	R9	R10	R11 ~
4-3 豪雪時の除雪、安全確保	豪雪時には除雪活動を呼びかけ、地域単位で除雪が行えるよう対策を検討	<ul style="list-style-type: none"> ・総務・安心・安全部会 ・区 	安否確認のしくみの検討	避難・安否確認訓練				

⑥ 参考

図表 地域の「防災」について関心が高いこと
(R4 アンケート調査結果)



5. これからの取組み

【プログラム5】 空き家の対策、環境の維持

⑥ プログラムの目的

地域内の空き家状況を調査し、リストアップして情報を共有するとともに、危険箇所がないか見回ります。場合によっては、行政と協力して解決に向けて取り組みます。また、耕作放棄地などの所有者と面談を行い、有効活用できないか相談を行います。

【目標（将来の姿）】

空き家の状況を把握できており、耕作放棄地なども有効に活用されており、地域の環境が維持されています。

数値目標	R5 現在	R10	注 釈
(1) 空き家調査の実施地区数	—	15区全て	
(2) 空き家の定期的巡回	—	15区全て	
(3) 空き家の利活用の推進	—	年3件	活用事例の講座など
(4) 前よりも空き家問題に対する関心が高まったと感じる住民の割合	—	30%	R10年にアンケートを実施

⑥ SDGsの推進



＜目標 11 住み続けられるまちづくりを＞

空き家を適正に管理して、利用可能な空き家は有効活用します。

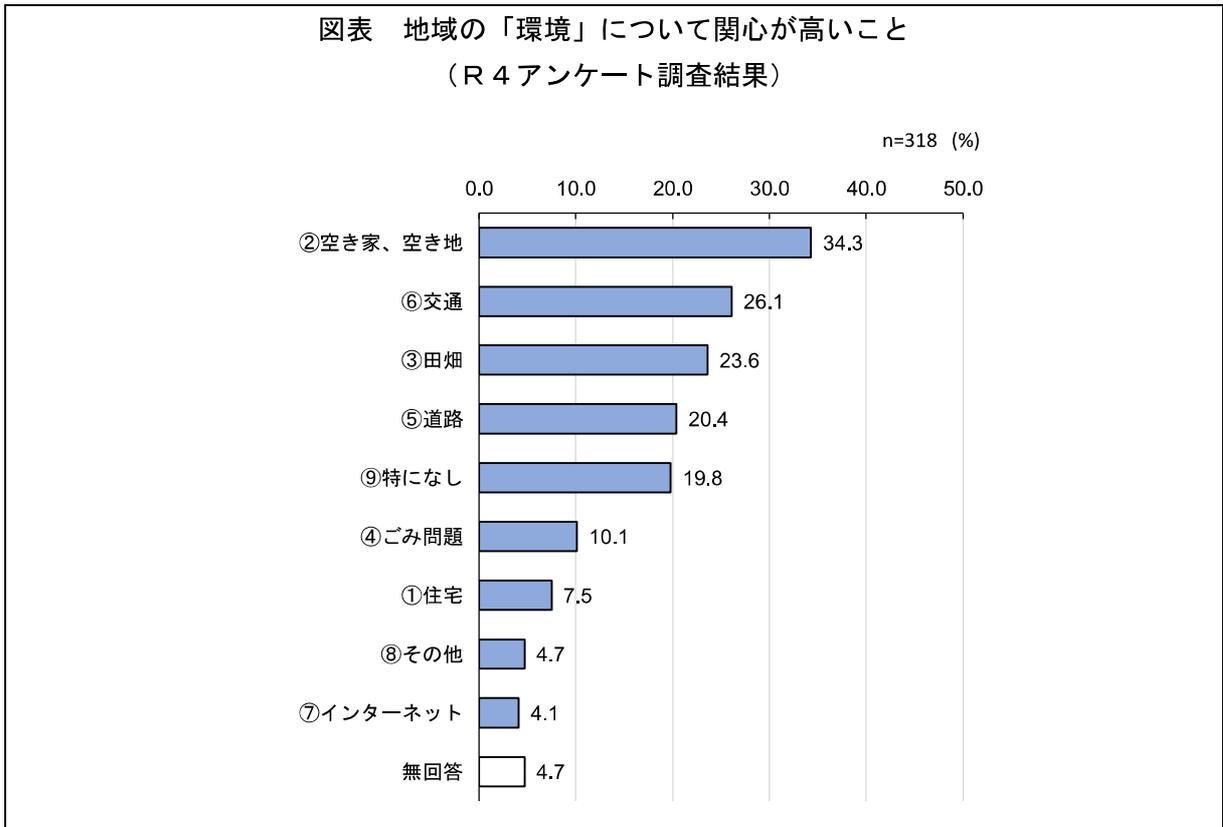
⑥ 取組み内容・主に取り組む主体・スケジュール

取組み項目	内 容	中心となる 主体	R6	R7	R8	R9	R10	R11 ～
5-1 空き家のリストアップ、共有	各区とも連携して地域の空き家状況を調査し、リスト化するなどして情報を共有	・産業・環境・美化部会 ・区			● 調査の進め方の検討	● 空き家調査・意見交換 ● リスト化・共有		→
5-2 空き家の危険個所の見回り	リストアップした空き家情報をもとに、台風前などには危険個所を巡回し、場合によっては行政へ相談。活用について学ぶ。	・産業・環境・美化部会				● 危険化箇所巡回・相談 ● 事例の講座開催など		→

5. これからの取組み

取組み項目	内 容	中心となる主体	R6	R7	R8	R9	R10	R11 ~
5-3 耕作放棄地の活用相談	耕作放棄地の実情を把握するとともに、所有者とも面談を行いながら有効活用を検討	・産業・環境・美化部会			●			→

⑥ 参考



5. これからの取組み

【プログラム6】 世代間交流と子育て支援、健康づくりの推進

⑥ プログラムの目的

コミュニティの持続性を高めるため、既存のイベントや行事を工夫して世代間交流を充実させるとともに、子育て世代のニーズを把握して地域全体で子育てを支援することや、子どもの視点に立った教育のために学校との役割分担と支援を行います。

また、園芸やカラオケ、ゴルフなど住民同士の同好会活動支援をはじめ、スポーツ交流や健康づくり講座を実施することで、みんなが楽しく健康で暮らせる地域を目指します。

【目標（将来の姿）】

みんなが楽しく世代間交流と健康づくりに取り組み、地域で子育てを支援することで、地域に活気が満ち溢れています。

数値目標	R5 現在	R10	注 釈
(1) 世代間交流を工夫した行事の数	3件	5件	町民会議主催の催し（ウォーキング、象鼻山フェスタ、夏祭りなど）
(2) 子育て支援の取組みの数	1件	3件	ニーズ把握から実施
(3) 健康づくりの行事の数	2件	5件	町民会議主催の催し
(4) 前よりも健康づくりに対する関心が高まったと感じる住民の割合	—	30%	R10年にアンケートを実施

⑥ SDGsの推進



<目標3 すべての人に健康と福祉を>

みんなが健康づくりにいそしみ、世代間の交流も楽しんでいます。

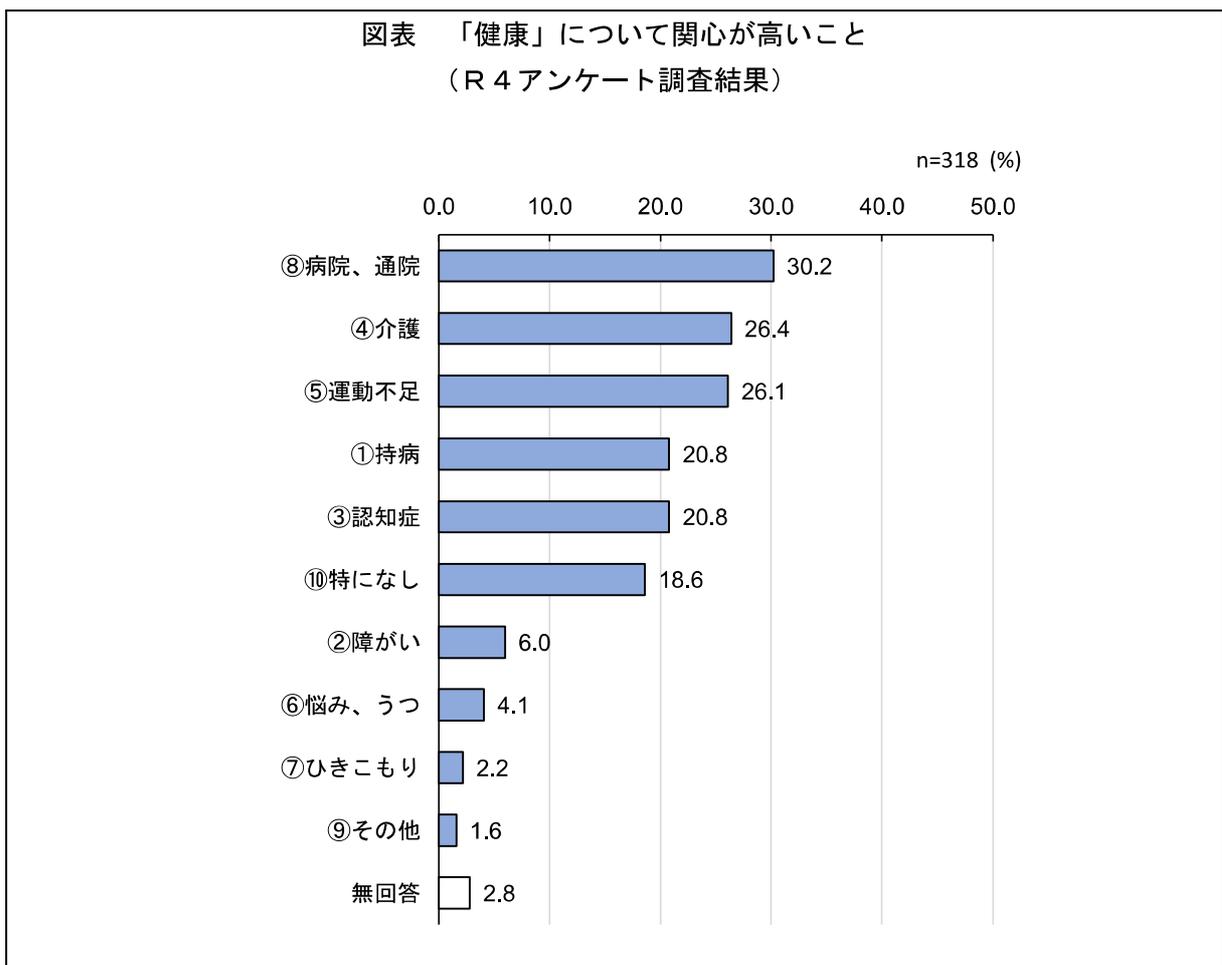
⑥ 取組み内容・主に取り組む主体・スケジュール

取組み項目	内 容	中心となる主体	R6	R7	R8	R9	R10	R11 ~
6-1 世代間交流 の推進	既存の行事を工夫し、世代間交流を企画・実施	・健康・福祉部会 ・文化・教育部会	● 催しの工夫		● 企画	● 試行・開催		→
6-2 子育て支援・ 相談	子育て世代のニーズ把握とそれに基づく取組みを推進	・健康・福祉部会 ・文化・教育部会	● ニーズ調査	● 取組みの検討	● 新たな取組み			→

5. これからの取組み

取組み項目	内 容	中心となる主体	R6	R7	R8	R9	R10	R11 ~
6-3 学校との協働の推進	地域行事などについて小学校との懇談、役割分担・活動の検討	・町民会議全体 ・文化・教育委員会	懇談の実施	支援開始				
6-4 同好会活動支援	住民同士の同好会活動（園芸、カラオケ、ゴルフなど）に対して支援	・文化・教育委員会	支援内容の検討	支援開始				
6-5 健康講座の開催	健康づくりのための講座や行事を企画して、参加型で開催	・健康・福祉委員会			検討・企画	試行・開催	本格的な開催	

⑥参考



6. 計画の推進

6 計画の推進

6-1 参加者の拡大とみんなの連携、活動の見直し

⑥地域自治町民会議への参加者拡大と参加者の拡充

地域には、今まで地域活動に関心が低く、活動への参加経験が少ない住民もいます。このため、地域自治町民会議やその活動の魅力を高めて参加者の輪を広げながら、気軽に参加しやすい活動を進めて、新たな人材の確保や若者、若い世帯の参加を掘り起こしていく必要があります。

また、日吉地域とつながりがある人々や、関心を持って活動に訪れる人々など、関係人口を創出することが課題です。

⑥地域自治町民会議と各団体との役割分担・連携

この計画は部会における先行事業の成果を生かして、5年間で実施可能な取組みについて検討を進めたものですが、区をはじめ各団体の力なしでは推進できません。

一方、各団体は地域を支えるために活動を重ねてきており、団体相互が地域自治町民会議の部会として連携することや、部会同士が連携することにより、明日の日吉地域を切り拓いていきます。さらに各団体では、今までの取組み内容を見直すことや、ほかの団体と連携して実施すること、地域自治町民会議として実施することを調整して、必要な活動の継続を図ることが課題です。

また、各団体とも、誰もが参加しやすい活動に心がけ、仲間づくりを進めることが必要です。

⑥事業者の活動への参加

今まで地域生活を支えてきた事業者や、他地域から進出してきた事業者は、事業活動に住民の理解を得ることや地域の活性化が重要です。

このため、事業者を地域の一員として、事業者に対して活動の協力を様々な形で得るとともに、地域自治町民会議への参加を積極的に呼びかけます。

⑥ほかの地域との連携

室原地域は同じ小学校区であり、また、公民館活動も一緒に行っており、連携していく必要があります。また、町内で既に活動している地域自治町民会議の動向を把握するとともに、将来的には連携した取組みを検討します。

また、日吉地域は養老スマートインターを有しており、これを有効活用して催しなどで広域的な交流を行うことを展望していきます。

⑥町などとの協働の推進

地域のみでは解決できず行政の支援が必要な事柄については、日吉地域として、町に対して協働の取組みを提案します。一方で、町から協働のまちづくりに関する提案がある場合には、この計画の内容を照らし合わせながら活動に反映していきます。

⑥住民への情報提供と情報の共有

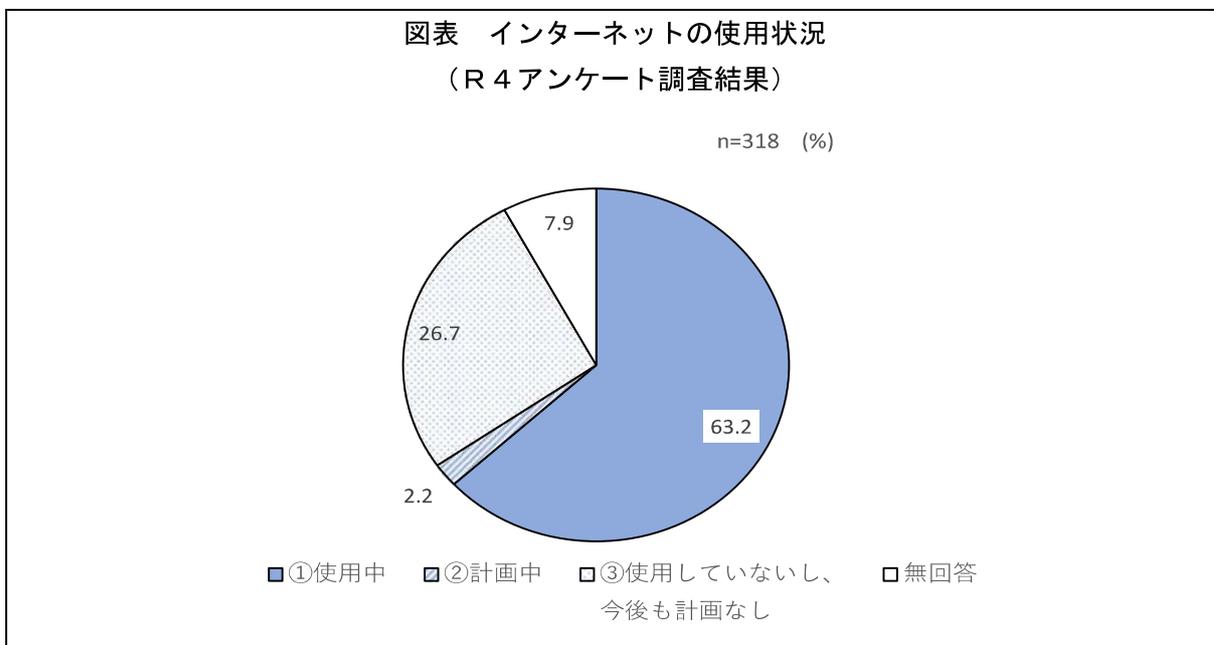
地域自治町民会議は住民の快適な暮らしを実現する役割があるとともに、一人ひとりの住民はそれを担っていく姿勢が必要です。

このため、「日吉地域自治町民会議」による情報提供を推進するとともに、住民へ

6. 計画の推進

の直接の情報提供、インターネット等を活用した情報提供を充実して、さらに住民に身近な区などの状況についてみんなで情報を共有します。

⑥参考



6-2 計画の改善・見直し

この計画は、次年度の予算を検討する根拠となるものです。このため、取組みの進み具合について毎年度チェックし、次年度の予算に反映させます。あわせて年度の節目などに、住民の意見を得て次年度の取組みを検討します。

重要課題に関する新たな活動アイデアが住民から提案された場合には、計画期間内でも柔軟に取組み内容の改善や見直しを進めます。

◇日吉地域の課題

◇日吉地域の課題

1. 日吉地域の現状

(1) 日吉地域の位置と地形

日吉地域は養老町の北部に位置しており、地域の南には一級河川牧田川が流れています。当地域は牧田川により形成された扇状地ですが、中世から度々水害に見舞われてきており、牧田川の流路が変わっています。かつて牧田川は高田中学校付近を通っていましたが、1566年（永禄9年）の大洪水で橋爪付近から直江付近が分流として現在の河道となりました。

日吉地域の南宮山の東南端に位置する標高129mの象鼻山が西にそびえますが、主要部分は平野を形成しており、地域の東にかけて標高が低くなり隣の室原から下流は輪中が形成されてきました。また、日吉地域の東部分などは、現在でも牧田川などによる浸水が懸念されます。

なお、象鼻山の山頂には、弥生時代後期から古墳時代後期（2世紀中頃から6世紀）に築造されたと考えられる前方後方墳・円墳・方墳など約70基の古墳群があります。平成9年（1997年）から平成11年（1999年）にかけて発掘調査され、箱型の木棺内からは、双鳳紋鏡1面と琴柱形石製品3点、鉄刀1点、鉄剣6点、鉄鏃44点以上、朱入りの壺1点が出土しており、県下でも有数の歴史資源となっています。

地域の交通条件では、南北に県道215号、東西に県道227号が通っており、名神高速道路は養老サービスエリア・スマートインターの利用が可能です。一方、公共交通については、養老鉄道美濃高田駅まで2km程度離れています。

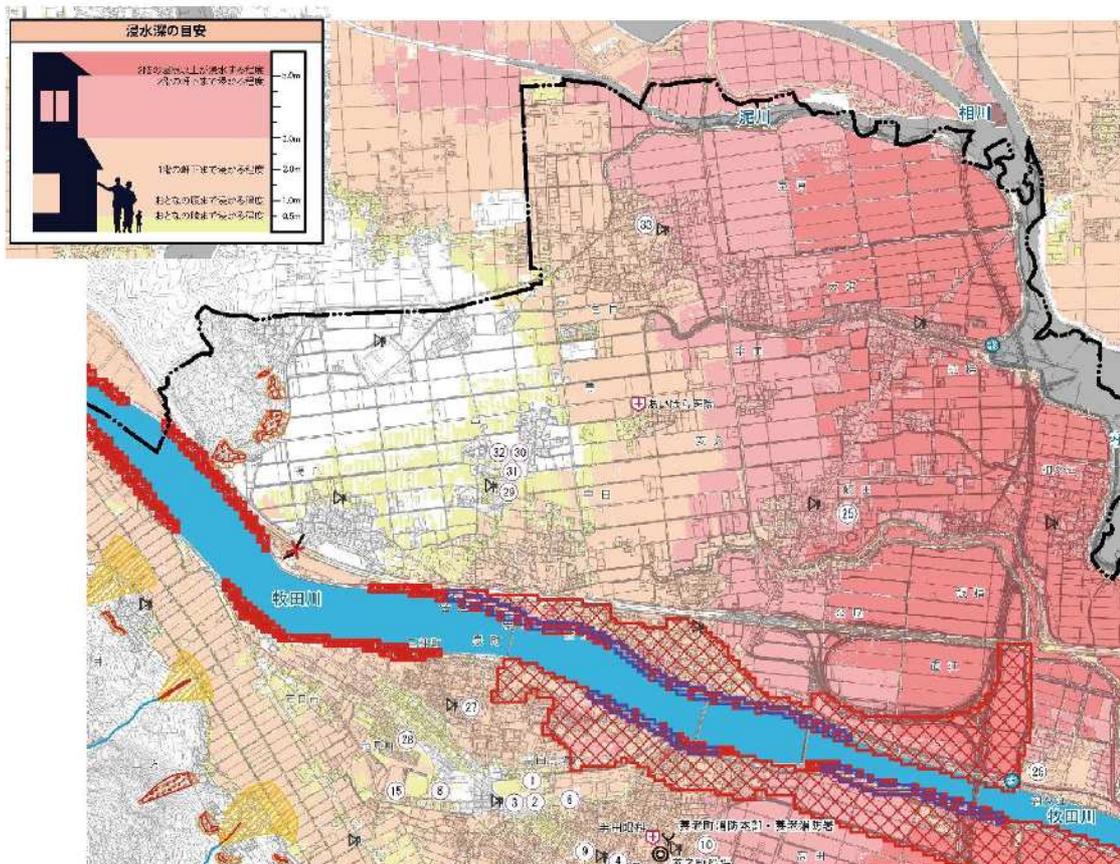
図表 日吉地域の概ねの範囲



(出典) 国土地理院

◇日吉地域の課題

図表 日吉地域と牧田川の洪水危険性



（出典）養老町洪水ハザードマップ 牧田川（平成 31 年3月）

◇日吉地域の課題

(2) 地域の歴史

日吉村は、明治6年(1873年)の大小区制を経た明治22年(1889年)に宇田村、橋爪村、中村、豊村、安久村(堤外地を除く)の五ヶ村が合併して誕生しました。

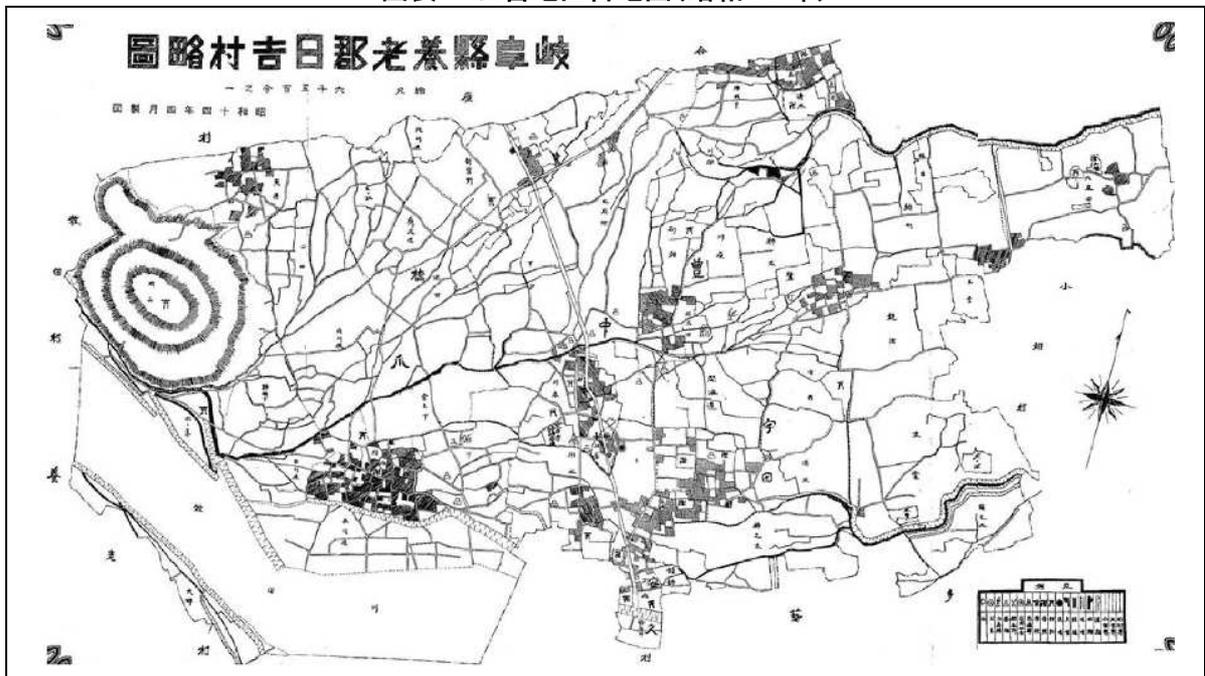
昭和29年には、日吉村など9村が合併して養老町が発足しています。

日吉村は大正10年(1921年)には365戸、1,954人でしたが、昭和29年に養老町として合併した時期には、日吉地区は379世帯、2,059人となっていました。

昭和14年(1939年)の岐阜県養老郡日吉村略図では、集落と河川・水路の様子が分かり、農業基盤整備が行われる前の状況がうかがえます。その後、養老町内は伊勢湾台風直後に圃場整備が進められ、日吉地域では河北土地改良区が創設されて農業基盤整備が進められてきました。

また、日吉地域の大部分は平坦で、大垣市など周辺地域との道路も整備されてきたことから、農地を転用して製造業や商業施設が立地してきました。こうした状況のなかでも、住宅地は旧集落を中心として形成されてきており、良好な居住環境や営農環境が維持されています。

図表 日吉地区古地図(昭和14年)



(出典) 村上喜代志「橋爪の歴史」平成4年

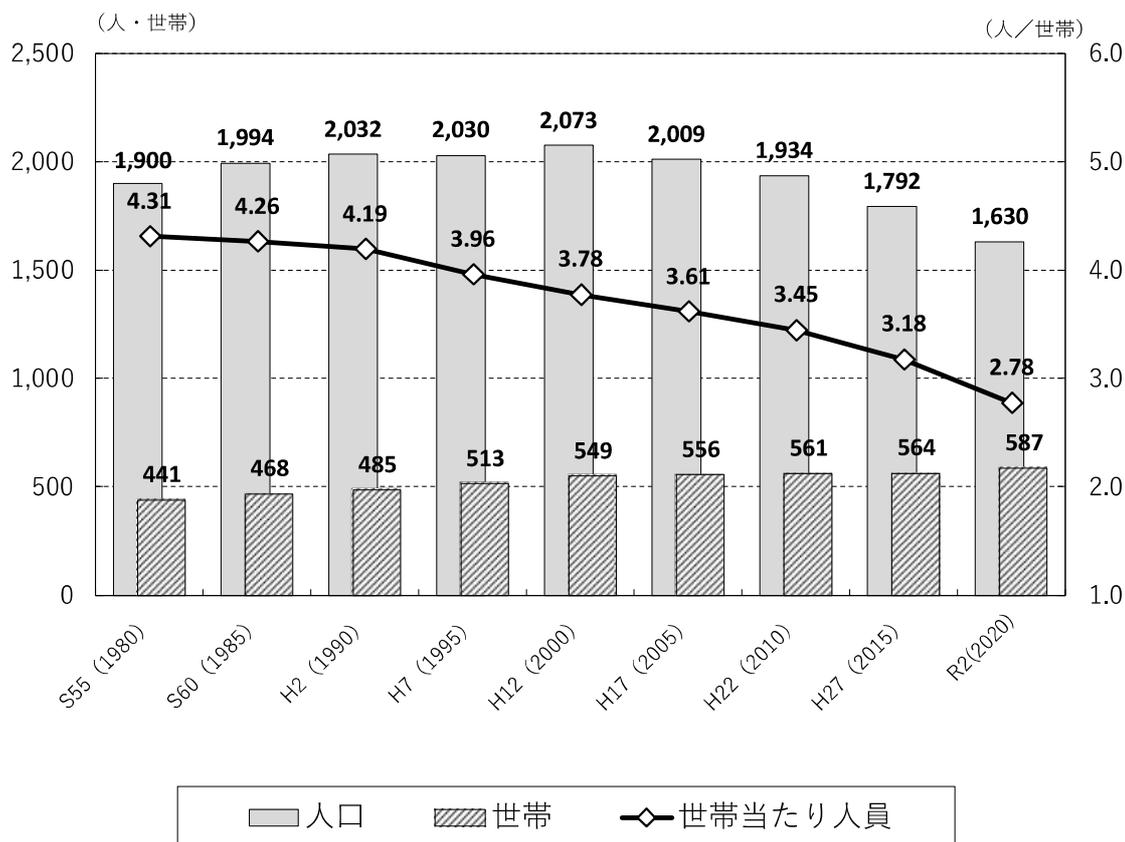
◇日吉地域の課題

(3) 人口・世帯数の動向

日吉地域の人口は 1,630 人、世帯数は 587 です（令和 2 年）。

昭和 55 年からの人口の推移をみると、平成 12 年に 2,073 人とピークを迎え、その後、減少しています。世帯数は、昭和 55 年から平成 12 年まで伸びており、世帯当たり人員は低下を続けています。世帯数の伸びは、婚姻後の世帯分離や世帯分離した家族が居住することによるものと考えられます。

図表 日吉地域の人口・世帯数の推移



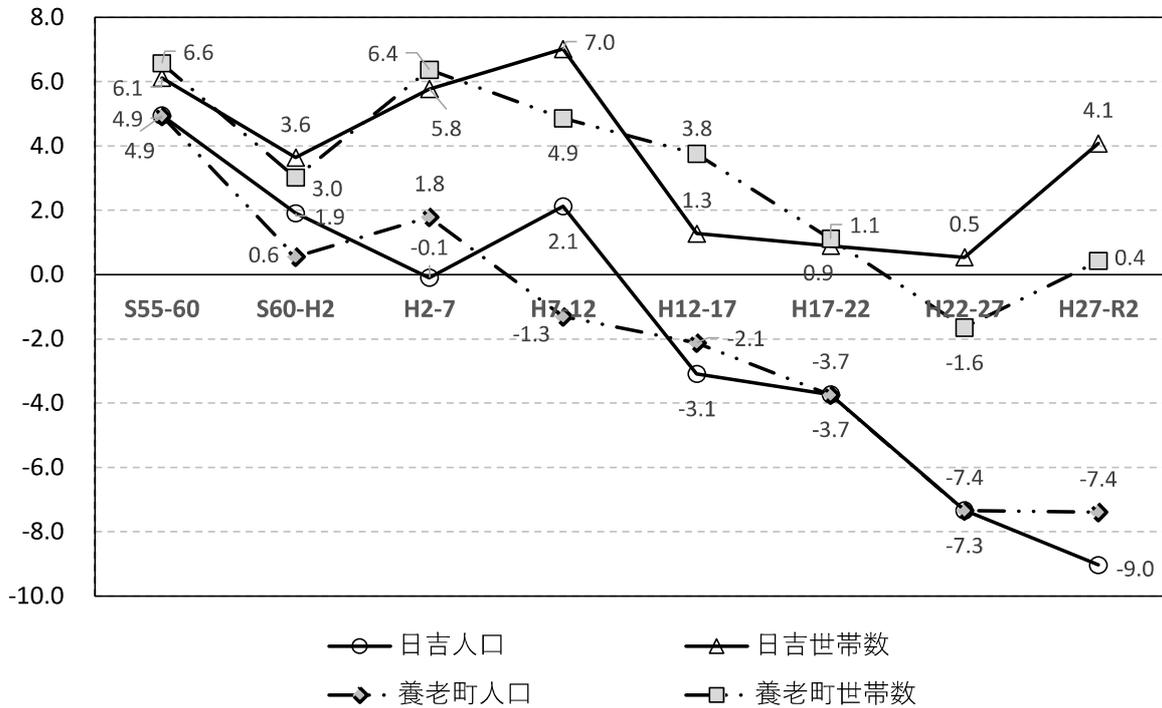
(注) 国勢調査に基づく町集計

昭和 55 年から 5 年ごとの人口、世帯数の増加率を見ると、日吉地域の増加率は養老町と同じような傾向ですが、日吉地域は平成 7 年から 12 年にかけて、人口、世帯数の増加率が町を上回っているのが目立ちます。

さらに、平成 27 年から令和 2 年にかけては、日吉地域の人口増加率は -9.0% と町よりやや低く、世帯増加率は 4.1% と町より高くなっています。

◇日吉地域の課題

図表 日吉地域と養老町の人口、世帯数の5年ごとの増加率（%）



図表 日吉地域と養老町の人口、世帯数と増加率（%）：再掲

	年	S55 (1980)	S60 (1985)	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)
日吉 (町集計)	人口	1,900	1,994	2,032	2,030	2,073	2,009	1,934	1,792	1,630
	増加率		4.9	1.9	-0.1	2.1	-3.1	-3.7	-7.3	-9.0
	世帯	441	468	485	513	549	556	561	564	587
	増加率		6.1	3.6	5.8	7.0	1.3	0.9	0.5	4.1
町全体 (国勢調査)	人口	31,372	32,919	33,102	33,694	33,256	32,550	31,332	29,029	26,882
	増加率		4.9	0.6	1.8	-1.3	-2.1	-3.7	-7.4	-7.4
	世帯	7,412	7,899	8,137	8,656	9,077	9,418	9,523	9,366	9,405
	増加率		6.6	3.0	6.4	4.9	3.8	1.1	-1.6	0.4

◇日吉地域の課題

(4) アンケート調査結果

令和4年度に実施したアンケート調査結果から住民に関心が高かった項目を整理すると、生きがいについては、仕事とともに様々な趣味についての回答がありました。

生活面では、少子高齢化に伴い高齢者や子育て層のこと、あるいは防犯面のことなどが挙げられました。

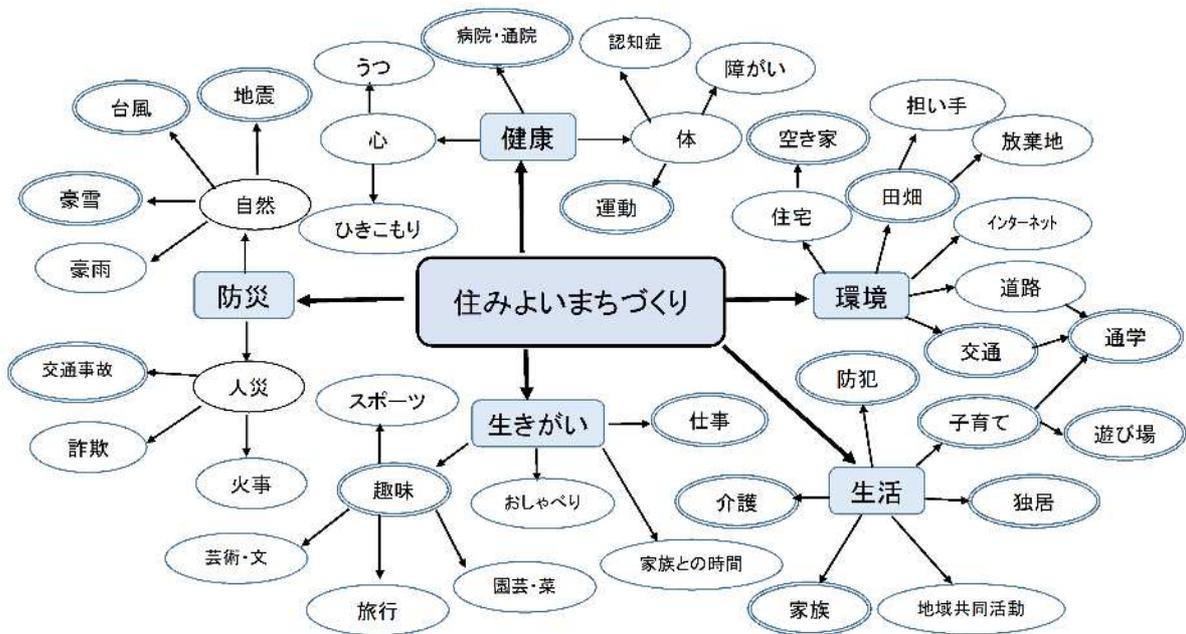
環境面では、空き屋発生に伴う問題、さらに遊休農地発生など田畑の管理の問題が挙げられました。

健康面では病院・通院や健康づくりのための運動などの関心が高くなっていました。

防災については、地震や台風、豪雪と幅広い災害への対策を求める意見が挙げられました。

子育てについては、遊び場や交通事故や防犯についての意見が目立っていました。

図表 課題と方向性のキーワード 二重線：アンケートで特に関心が高かった項目



◇日吉地域の課題

2. 日吉地域の主要課題

日吉地域の現状やアンケート調査結果、さらに、役員会における意見交換から、日吉地域の主要課題は次のように整理することができます。

⑥ 少子高齢化と人口減少の抑制

日吉地域においては、町全体の傾向と同様に少子高齢化と人口減少が進んでいます。地域の人口は少なく、小ぶりの地域を形成しており、地域社会を持続するためには人口減少の抑制が必要です。このことは、地域における様々な取組みと関わりと十分に捉えることが必要です。

⑥ 高齢者等の弱者が暮らし続けることができること

ますます増えていく高齢者には、できるだけ自立した生活をおくっていただくことが必要ですが、健康上の理由などで日常生活に支障がある高齢者も徐々に増えていくと見受けられます。また、高齢化にともなう運転免許の返納により、高齢者のための交通手段の利便性向上が課題です。

このため、身近な地域で生活支援が必要な高齢者等の弱者・世帯が快適に暮らし続けられる地域づくりが課題です。

⑥ 美しい地域環境を維持することが課題

日吉地域は都市部と比べれば美しい環境が保たれていますが、それでも雑草が茂って十分に管理されていない道路や農地などにはごみのポイ捨てが見られ、美化することが課題です。

一方、地域環境のみならず地球環境にも配慮することが求められる時代になっており、家庭からのごみを少なくすることや、できるだけ資源を大切に使うライフスタイルに転換することが課題です。

⑥ 地域の貴重な歴史文化資源の継承

住民の尽力もあり保存されてきた象鼻山の山頂付近の象鼻山古墳群は、有数の歴史文化資源です。地域の歴史をみると、水害が度々あったことから、水田など営農環境を整える努力が重ねられてきました、

こうした歴史文化や自然の良さは住んでいると忘れがちになるため、地域の資源を再発見することや子ども頃から地域を知ることが課題です。

⑥ 災害への備え、災害時の対策

日吉地域や養老町では近年、豪雪により交通や子どもの通学などに支障をきたしています。また、伊勢湾台風をはじめ台風や豪雨による浸水被害が発生してきました。さらに、南海トラフ巨大地震の発生など地震災害についても懸念が高まっています。

このため、住民一人ひとりが災害に備えることや、地域においても避難などの対

◇日吉地域の課題

策を今以上に進めることが課題です。

⑥空き家や耕作放棄地の対策

住民に身近な地域において空き家が目に付くようになっており、子どもの世帯分離と居住者の高齢化に伴い空き家が増加することが予測できます。空き家が管理されない場合には、地域環境の悪化を招き、また、災害時に倒壊することなどの危険性があります。このため、空き家の状態に応じて管理を的確に行うことや、状態が良い空き家は活用を図ることが課題です。

また、耕作放棄地に関しても、空き家同様、その管理や活用が課題です。

⑥住民の交流と子育てしやすい環境づくり

住民の生きがいや楽しみは多様な趣味、活動に及んでおり、生活圏も拡大してきました。このため、地域での今までの催しに参加しやすくすることや、世代を超えて楽しみ、交流することが課題です。さらに、地域社会としての持続性や活力を高めるためには、子どもを生み育てやすい環境づくりを地域が一体となって取り組むことが課題です。

また、高齢になってもできるだけ自立した生活を過ごすことができるように、子どもの頃からスポーツに親しむなど、健康づくりにいそしむことが課題です。

⑥交流と連携

小ぶりの日吉地域の地域力を高めるためには、住民相互の絆づくりはもちろん、若い人材の掘り起こしや企業も含めた多様な主体のまちづくりへの参加、さらに、地域外とも力を合わせることも課題です。